設立趣意書

グローバル・アライアンス『持続可能な平和と繁栄をすべての人に』

［考え方］

現在，国際社会を取り巻く大きなリスクとして，感染症パンデミック，気候変動，核兵器問題の３大脅威(existential threat)が存在する。これらは，公衆衛生，環境，人道の持続可能な未来を脅かしている。解決のためには，それぞれの分野において，国際社会が注力し，マネジメントし，協力しなければならない。これらのリスクのうち、核兵器は国際的に最も注目されていないが、間違いなく最も大きな脅威となっている。核戦争は，たとえ小型の限定的な核兵器であっても，ひとたび使用されれば，壊滅的で世代を越えた結果をもたらし，例え地球そのものを破壊しなくとも，国連が目指す多くのあるいは全ての開発目標の達成を不可能とするだろう。

加えて，SDGs 達成に必要な膨大な財政的・人的資源は，核兵器の製造，実験，配備に吸い取られている。また、核兵器で威嚇する安全保障ドクトリンの維持は、国家間の緊張を高め、気候の保全や SDGs の実施に必要な国際協力に悪影響を及ぼしている。

我々は，核リスクの低減と軍縮に政治的関心が向けられ、どれだけ遅くとも，シンギュラリティが到来する前，すなわち被爆 100 年・国連創設 100 周年となる 2045 年までに世界から核兵器を廃絶することを 2030 年以降のポスト SDGs アジェンダに目標として位置づけなければ，人類の存亡そのものが危ぶまれるものとして，深く憂慮する。

このような核兵器問題に対して国際的な関心を集め，協力を構築するために、コンセンサスに基づいて大きな目標を設定し、そこからバックキャスティングを行うという SDGs のアプローチに着目する。法的拘束力を求める従来のアプローチに，SDG s のアプローチを組み合わせることにより，合意形成の実効性を高めるだけでなく，核兵器の問題を，環境，社会，経済といった多方面から持続可能性の観点で捉え直す。併せて，核兵器に頼らない安全保障の道を探ることで，より多くの共感・賛同を得るための突破口を模索する。

［目的］

2030 年以降の次期国連開発目標（ポスト SDG s ）において，核兵器廃絶が目標として位置付けられることを目指し，核兵器を持続可能性の観点から問題提起し，国際社会に働きかけを行うことを目的とする。

［役割］

○　核兵器問題，環境問題，人権問題をはじめとする様々な分野において，問題意識を共有する NGO，大学，ユースなど多様なアクターによって構成される市民社会のプラットフォームとして，2025 年以降に本格的に始まるポスト SDG s を巡る国際交渉に向けて，国連，政府関係者に働きかけを行うとともに，グループとして交渉に参画する。

○　多様な領域にまたがる多様なアクターの集合知を活用して，核兵器問題を持続可能性の観点から捉え直し，国際社会に問題提起を行う。

［活動］

１．核兵器問題が環境，社会，経済など多方面に及ぼす影響を持続可能性の観点から捉え，国際社会に問題提起を行うための政策提言を策定し，キャンペーン活動などを通じて発信を行う。

２．外交交渉に携わる政府関係者を集めた「フレンズ会合」の設立及びその活動に対して支援を行う。このグループのメンバーは，それぞれが関係を有する政府に対し，「フレンズ会合」への加入を働きかける。

３．交渉主体として国際交渉に参画するために，グループとして，国連経済社会理事会（ECOSOC）における協議資格の申請，及び，メジャーグループ及びその他ステークホルダー（MGoS）における新規グループ立ち上げを目指す。

４．国連がこれまでに発表した「軍縮アジェンダ（An Agenda for Disarmament ）」，及び「コモン・アジェンダ(Our Common Agenda)」を市民社会の側からサポートしていく。また今後，国連未来サミット(Summit of the Future)において策定される新たなアジェンダ（Agenda for Peace）に，「2045 年までの核兵器廃絶の達成」が盛り込まれ，ポスト SDGｓに向けた国際的な潮流を確実なものにしていくよう，働きかけを行う。

上記の内容に同意する団体・個人は，メンバーとしてグループに加入できる。
なお，別途定める倫理・行動規範について，メンバーはこれを遵守しなければならない。
グループの代表，意思決定等については，別途定める規約にて規定する。